

清流

題字：芳野 充

令和6年10月30日
第94号

発行所 加来不動産(株)
発行者 加来 寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

まず、不快さを与えない

なぜか人に好かれ、何かしようとする色んなところから協力者が自然と集まるような人が少なからず存在します。わたしのまわりにもそのような方が数名いらっしゃいます。得てしてそのような方は「人徳がある」と言われることがあります。この「人徳」とはどのような意味なのか調べてみると、「その人の身につけている徳」とありました。

またさらにこの「徳」の意味を調べてみました。「①身にそなわった品性。人としてのねうちのねのある行い。『徳義』『道徳』『②めぐみ。教え。『徳化』『恩徳』『③もうけ。利益。『徳用』」。こうなると、「徳」の

意味も個人的には迷路にまよいこむ印象をうけます。わたしは座右の書の一冊である『素心学要論』には、徳についてこのように記されています。「『徳』は『思いやり』のことです。『思いやり』とは、相手に不快さを与えない、安心と喜びを与えることです」（『素心学要論』池田繁美著）。「徳」をこのように定義すると、理解しやすくなります。

つまり、人徳がある人というのは、自分よりもまず相手が安心することや、うれしく思うことを優先でき、そして行動できている人、ということではないでしょうか。ですからまわりの人から好意をもたれ、何かしようとする、自然と協力者が集まることは納得がいく話です。

ここでわたしの苦い体験をお話ししたいと思います。以前のわたしは無意識に妻に対して不快さを与えていました。例えば、声をかけられても顔も見ずに生返事でこたえる。家事や育児に対して、当たり前と思いつつも言葉もかけない。自分のしたいことを最優先し、頻繁に歩み空ける。妻の要望は二の次、などなどあげればきりがありませんでした。

しかし、わたしの予定がない日は妻をドライブに連れていったり、記念日にプレゼントを渡したりしていたので、「妻に喜びを与えられている」、と本気で思っていました。妻はそれらの行為に対して、お礼は口にしないで、度々口論になっていました。

いまではその理由がわかります。相手に安心と喜びを届けようと思うのなら、まず普段から不快さを与えていることに気づかないといけない、ということなのです。しかし難しいのは、相手の悪いところには目がおきやすいのですが、自分の未熟な点には目がおきづらいということです。

相手との関係を良好にしたいと考えるのなら、まず相手に不快さを与えていないだろうか、と自分を客観的にみつめることが大切ではないでしょうか。そうすることでお互いが思いやりをむけあえる、良好な人間関係が築けるにちがいないと思います。

加来 寛

